様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年　６月１９日現在

機関番号：７４３０５
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2009～2011
課題番号：２１５２０７０６

研究課題名（和文）　戦後社会運動史の実証的研究 ―北原泰作文書の分析を通して―

研究課題名（英文）　An Empirical Research on the History of the Social Movements after the World War II, Based on the Analysis of ‘Kitahara Taisaku Collection’

研究代表者
廣川　禎秀（通称名・広川　禎秀）（HIROKAWA　TADAHIDE）
社団法人部落問題研究所・研究員
研究者番号：30047237

研究成果の概要（和文）：戦前・戦後の部落問題解決をめざす運動における活動家・理論家であった北原泰作が収集した３千点以上にのぼる資料群（北原泰作文書）の調査・整理を行い、データの入力作業を完了させた。社会運動史にとどまらず日本近現代史の重要な資料群でもある北原文書を公開するための基礎的条件を整えることができた。北原文書の分析も進め、その一部については「史料紹介」として公表した。また、北原文書を使用した戦後社会運動史の実証的研究の成果も図書などで公表した。

研究成果の概要（英文）：Kitahara Taisaku (1906-1981), an activist and theorist of the liberation movement of ‘Buraku problem’ through the prewar and postwar-time in Japan, collected more than 3,000 pieces of materials related to Buraku problem and compiled them as a private collection (‘Kitahara Taisaku Collection’). The collection has great significance for researchers to promote not only the historical studies of social movements but also the studies of Japanese modern and contemporary history. Firstly we reorganized the materials to preserve them in a better condition according to the complete enumeration. Simultaneously we have finished making the catalogue of the collection in order to make it open to the public in the near future. Then we have made bibliographical analysis of the part of the materials and introduced them on the academic journals. Some of the materials of the Kitahara collection already have been utilized in the published works on the history of social movements by researchers including our KAKEN group members.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	1,700,000	510,000	2,210,000
２０１０年度	1,200,000	360,000	1,560,000
２０１１年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：史学、日本史
キーワード：社会運動史、北原泰作文書、部落問題、日本近現代史

様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

１．研究開始当初の背景

(1) 北原泰作文書の利用条件の整備。

①近現代日本の重大な社会問題であった部落問題が、第二次大戦後の日本社会の構造的変化のなかで、ようやくその解決段階に到達したことが広く確認されてきた。そうした部落問題解決をめぐる状況の進展は、部落問題の解決をめざす運動に戦前の水平運動の段階から参加し、戦後も活動家としてまた部落問題の理論家として重要な役割を果たした北原泰作（1906―1981 年）が収集した資料群「北原泰作文書」の本格的な利用を可能とした歴史的条件でもあった。

②廣川禎秀（広川禎秀）らを中心とした北原文書研究会は、2007 年「北原文書」の整理作業に着手した。

(2) 戦後社会運動史研究などの進展。

①21 世紀に入り、戦後社会運動史研究への関心が高まり、廣川禎秀ら編著『戦後社会運動史論』(2006 年）など、具体的な成果も発表され始めた。

②部落問題の解決過程に関しても廣川禎秀らの研究が進められ、第 46 回部落問題研究者全国集会（2008 年 10 月）では廣川が「部落問題解決理論の史的分析」を報告するなど、一定の成果をうみつつあった。

(3) 以上の資料的条件および研究の進展を背景・前提として本研究が開始されることとなった。

２．研究の目的

(1) 北原泰作文書の整理・保存作業を進め、さらにデータを入力し目録化することによって、社会運動史を中心とした日本近現代史研究の基礎資料として広く学界等に提供（公開）すること。

(2) 北原泰作文書の読解作業を、北原文書研究会を中心に進め、その成果を公開するとともに、重要資料を選定して資料集を刊行すること。

(3) 北原泰作文書の分析を中心に、戦後社会運動史研究を進めること。特に、北原泰作が重要な役割をになった部落問題解決過程について、多面的実証的な共同研究を進めること。

３．研究の方法

(1) 連携研究者の参加・協力を得ながら、研究代表者廣川禎秀（広川禎秀）を中心に研究を進める。

(2) 北原泰作文書の整理作業を進め、資料は中性紙封筒に入れて保存する。整理にあたっては、資料の情報をカードに記入する。カードの情報をパソコンに入力して、「北原泰作文書目録」を完成させ、北原文書を公開できる基礎的条件を整える。

(3) 北原泰作文書の読解作業を、重要資料の選定作業も含めて、北原文書研究会を中心に行う。資料にもとづいた厳密な実証的分析を積み重ねることによって、最終的には資料集刊行をめざすが、読解作業の成果は適宜、「史料紹介」として公表する。

(4) 研究組織参加者はそれぞれの分担課題の研究を進め、共同の研究会（北原文書研究会）などで発表し、相互討論を通じて、戦後社会運動史の共同研究を推進する。特に、北原泰作文書の分析を中心とした、部落問題解決過程についての研究に重点を置いて進めていく。

(5) 以上の研究推進のため実務補助等にあたる研究協力者として、若手研究者の参加を得る。同研究協力者は、北原泰作文書の整理・保存とカード・データの入力作業などもおこなう。

４．研究成果

(1) 北原泰作文書の整理・保存とカード・データの入力作業。

①北原文書の整理・保存作業は、若手研究者（研究協力者）の参加も得て、順調に進めることができた。資料を一点ずつ中性紙封筒に入れ、全３０３２点につき、保存措置を講じることができた。

②北原文書の資料につき、一点ごとに番号を付し（資料によっては枝番号も付した)、それらの概要をカードに記載した。この作業も、若手研究者（研究協力者）の参加によって順調に進めることができ、全３０３２点について終了した。

③カード・データは、資料原本と照合させて、一点一点確認した上で、パソコンへの入力作業をおこなった。この作業も、若手研究者（研究協力者）の参加も得て進め、全３０３２点

について終了した。

④以上の作業遂行により、北原文書の公開に向けた基礎的条件がほぼ整うことになった。残された課題としては、入力したデータを確認し、必要な修正等を加えた上で、「北原泰作文書目録」として完成させる作業がある。同作業については、2012 年度に社団法人部落問題研究所において推進し、北原文書を学界等一般に公開できる準備を完了させる予定である。

(2) 北原泰作文書の読解作業とその成果。
①北原文書研究会における資料読解作業を、研究代表者廣川禎秀（広川禎秀）を中心に、連携研究者や研究協力者（若手研究者）の参加も得て進めることができた。

②資料読解作業の結果、北原文書には、北原泰作の関与した戦前の活動、戦後の部落解放全国委員会・部落解放同盟の運動、政府の同和対策審議会（同対審）・同和対策協議会（同対協）の取り組み、国民融合をめざす部落問題全国会議（国民融合全国会議）の活動、その他北原直筆のノートやメモなど、重要な史料が、部落問題とその解決にかかわるものを中心に、多様かつ多数含まれていることを確認することができた（後掲５、雑誌論文⑤参照）。

③資料読解作業の成果の一部は、社団法人部落問題研究所の研究紀要『部落問題研究』誌上で、連携研究者西尾泰広や研究協力者本井優太郎による６回におよぶ「史料紹介」として公開することができた（後掲５、雑誌論文②③④など）。

④「史料紹介」のうち、北原泰作の戦前・戦中の資料、「昭和十三年「記録」」（『部落問題研究』190 輯、2009 年、研究協力者本井優太郎執筆）と「昭和十七年「日記」」（後掲５、雑誌論文④）については、「昭和戦前期の社会の領域を理解するのにふさわしい個人の日記の翻刻がなされている」例としてとりあげられる（『史学雑誌』119 巻 5 号、2010 年、「2009 年の歴史学界―回顧と展望」）など、北原文書の存在とその整理作業に基づく成果の公開が、歴史学界にインパクトを与えている。

⑤以上の作業とその成果により、北原文書の全体像をかなりの程度明らかにすることができた。残された課題は、北原文書の重要資料を選定し、それらを資料集として刊行し公表することである。同作業については、社団法人部落問題研究所から刊行中の『部落問題解決過程の研究』（全５巻、うち２巻が既刊）の続巻として刊行する予定である。

(3) 北原泰作文書の分析を中心とした、部落問題解決過程に関する共同研究の推進とその成果。
①研究代表者廣川禎秀（広川禎秀）および連携研究者が各自の分担テーマを、北原泰作文書の分析作業を中心に追究した。その成果は、北原文書研究会例会で報告し、例会参加者全体で検討することができた。

②北原文書研究会における共同研究の主要な成果は、廣川禎秀「部落問題解決理論の史的考察―北原泰作を中心として―」、鈴木良「歴史のなかの部落問題とその解決過程」、同「日本社会の変動と同和行政の動向―同和対策審議会から同和対策事業特別措置法へ―」、佐々木隆爾「戦後世界史の展開と日本における民主主義の成長過程」、坂井田徹（森下徹）「勤評闘争から安保闘争へ―大阪府泉北郡における地域共闘と部落解放運動―」、西尾泰広「部落解放全国委員会の運動」、竹末勤「部落問題研究所の成立―その歴史過程―」、尾川昌法「高知県における教科書無償運動」として、各自が論考を執筆して、共著『部落問題解決過程の研究　第１巻　歴史篇』（後掲５、図書②）に収録された。

③研究成果である共著『部落問題解決過程の研究　第１巻　歴史篇』については、研究者による書評が、朝治武（『部落問題研究』196 輯、2011 年）、井口和起（『人権と部落問題』814 号、2011 年）、山田敬男（『部落問題研究』198 輯、2011 年）らによってなされたほか、研究代表者廣川禎秀も同書の意義を明らかにしている（後掲５、雑誌論文①）。

(4) 戦後社会運動史研究の成果（部落問題の解決過程についての研究を除く）としては、研究代表者廣川禎秀（広川禎秀）や連携研究者坂井田徹（森下徹）らが、それぞれの分担テーマに関する研究を進め、共著『戦後社会運動史論②』（後掲５、図書①）などを発表した。

(5) 以上のように、本研究は成果をおさめ、その一部を広く公開することができた。
　残された課題である、「北原泰作文書目録」の完成と北原文書の公開、重要資料の公開（資料集の刊行）についても、その遂行にむけた作業が社団法人部落問題研究所において進められている。
　なお、本研究課題については、研究代表者廣川禎秀（広川禎秀）が新たに 2012 年度（平成 24 年度）から科学研究費助成事業・基盤研究(B)としておこなう共同研究「近代日本における地域社会の変貌と民衆運動に関す

る総合的研究」(5年間、課題番号24320135)において、さらに継承・発展させて進めていく。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１３件）

①廣川禎秀（広川禎秀）、部落問題研究の新段階、部落問題研究、査読有、200輯、2012、2－13
②西尾泰広、史料紹介 北原泰作文書(その6)部落解放全国委員会関係史料（その2)、部落問題研究、査読有、198輯、2011、83－106
③西尾泰広、史料紹介 北原泰作文書(その5)部落解放全国委員会関係史料、部落問題研究、査読有、195輯、2011、84－110
④本井優太郎、西尾泰広、史料紹介 北原泰作文書（その 2） 昭和十七年「日記」、部落問題研究、査読有、191輯、2009、59－122
⑤伊﨑文彦、西尾泰広、北原泰作文書の調査の経過について、部落問題研究、査読有、190輯、2009、2－25
⑥廣川禎秀（広川禎秀）、部落問題解決理論の史的考察、部落問題研究、査読有、189輯、2009、4－32

〔図書〕（計３件）

①廣川禎秀（広川禎秀）、坂井田徹（森下徹）,他、大月書店、戦後社会運動史論②、2012、12－50（廣川)、142－174（坂井田）
②廣川禎秀（広川禎秀）、尾川昌法、佐々木隆爾、鈴木良、竹末勤、坂井田徹（森下徹）、西尾泰広,他、部落問題研究所、部落問題解決過程の研究 第１巻 歴史篇、2010、17－55(鈴木)、57－102（佐々木)、103－169（廣川)、171－210（坂井田)、211－249（鈴木)、253－277（西尾)、279－306（竹末)、307－339（尾川）
③廣川禎秀（広川禎秀）、坂井田徹（森下徹）,他、部落問題研究所、近代大阪の地域と社会変動、2009、9－33（廣川)、345－389（坂井田）

６．研究組織
(1)研究代表者
廣川　禎秀（HIROKAWA　TADAHIDE）
（通称名・広川　禎秀）
社団法人部落問題研究所・研究員
研究者番号：30047237

(2)研究分担者　なし

(3)連携研究者
梅本　哲世（UMEMOTO　TETSUYO）
桃山学院大学・経済学部・教授
研究者番号：00258774
尾川　昌法（OGAWA　MASANORI）
社団法人部落問題研究所・研究員
研究者番号：20072704
奥山　峰夫（OKUYAMA　MINEO）
社団法人部落問題研究所・研究員
研究者番号：50072707
佐々木　隆爾（SASAKI　RYUJI）
社団法人部落問題研究所・研究員
研究者番号：10086944
鈴木　良（SUZUKI　RYO）
社団法人部落問題研究所・研究員
研究者番号：70179274
竹末　勤（TAKESUE　TSUTOMU）
社団法人部落問題研究所・研究員
研究者番号：30332224
能川　泰治（NOGAWA　YASUHARU）
金沢大学・歴史言語文化学系・准教授
研究者番号：30293997
坂井田　徹（SAKAIDA　TORU）
（通称名・森下　徹）（MORISHITA TORU）
社団法人部落問題研究所・研究員
研究者番号：40529921
西尾　泰広（NISHIO　YASUHIRO）
社団法人部落問題研究所・研究員
研究者番号：70469641
一盛　真（ICHIMORI　MAKOTO）
鳥取大学・地域学部・准教授
研究者番号：90324996